



三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2023-24 クラブテーマ **気づき、ひらめき、ひろげよう**



2023. 8. 21

新会員卓話

No.2458

No.6



会長挨拶

三条南ロータリークラブ
会長
熊倉 高志

お盆休みも明け、連日の猛暑にからだも疲れていることと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。本日の卓話は中村会員です。よろしくお願いいたします。

今日は人種や文化の違いがあっても、人間としての共通根本にかかわる話をしてみたいと思います。日本における仏教は貴族から武士へ、そして民衆へと広まるとともに鎌倉時代に法然の浄土宗が広まり、南無阿彌陀仏を唱えるだけで往生すなわちあの世に行けるとしました。その弟子の親鸞聖人は浄土真宗を開きます。1200年前後のことです。彼は当時ではタブーの妻帯者、つまり嫁とりをしたのです。善悪とはそして人間とは何かを問い詰めた当然の結果であったのかもしれませんが。気が付くと、これら信仰のしやすさはより明確になって経過していくといっても過言ないように思います。

このことはキリスト教でも同じで、私たちの街にルーテル幼稚園がありますが、これは宗教改革の立役者ルターからきているようです。ルターは主流派のカトリックに対して抵抗し、プロテスタントを立ち上げました。宗教改革は1517年のことです。皆さんは神父と牧師の違いはわかるでしょうか。カトリックは神父、プロテスタントは牧師となります。神父は生涯独身ですが、牧師は結婚できます。時間のずれはあっても同じ人間です。進むべく道は同じようですね。

因みに、このタブー破りの似たようなことは人類における戦の仕方にもみられます。鎌倉時代の元寇でも日本人は正々堂々、名乗ってから一騎打ちがそれまでの戦文化でした。モンゴル人はお構いなしに攻撃してきたといえます。そういえば義経も海上の戦で、舟のこぎ手を射るというタブーをしたといえます。そののち、戦国時代でもだましたまされというのは当たり前になります。

古くは中国の戦でも本来はお互いに戦いの準備をして、合図でいざ開戦という時代もあったようです。春秋戦国時代を境に孫子のような優れた軍師が活躍し、きれいな戦はなくなっていきます。なんと、千年以上もずれがあるとは日本は平和だったと喜んでよいのか、複雑です。

◆本日の出席：42名中25名

◆先週までの通算出席率：75.92%

◆先週までのメイクアップ：

▶8/15(火) 三条北RCへ 坂井範夫君

▶8/20(日) 国際奉仕フォーラムへ 桑原朋子さん

◆幹事報告 吉沢栄一幹事

▶【第8回台日ロータリー親善会議台北大会】のご案内
2023年10月20日(金) 於：台北マリオットホテル
▷10月19日はゴルフコンペ、親睦日帰り旅行の募集もあります▷申込締め切りは8月30日

▶【地区大会】2日目・本大会参加のご案内

2023年11月5日(日)

▷於：燕三条地場産業振興センター

9：30～本会議(昼食・休憩を挟み午前午後)

16：00～18：30ロータリー親睦交流会

▷1日目から参加の4人を含めて、17名の参加を。

ニコニコボックス

8/21 8,000円 本年度累計 104,000円

熊倉会長「中村さん、卓話楽しみにしています。よろしくお願いいたします」

吉沢幹事「本日は中村さんの卓話楽しみにしております」

坂井君「約2ヶ月の間、雨もありません。火災は気をつけましょう」

西湯君「雨が降らない日が続いていますが、週間天気予報では26日(土)27日(日)と雨が降る予報になっていました。はずれることがないように!!」

中村君「本日、卓話をさせていただきます。よろしくお願いいたします」

銅冶君「中村さん、本日の卓話ありがとうございます」

藤田君「BOXに協力します」

太田君「BOXにご協力ありがとうございました」



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー会長 ゴードンR. マッキナリー (スコットランド)
第2560地区ガバナー 米山 忠俊 (三条北)
第4分区ガバナー補佐 小出 和子 (三条東)
会長 熊倉 高志
幹事 吉沢 栄一
SAA 田中 康之

事務局
〒955-8666 三条市町2-5-10
三条信用金庫本店内
TEL 0256-35-3477
FAX 0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL https://www.sanjo-minami.jp

新会員卓話

「IT機器の整備運用の考え方 ～考え方をあらためる決定的な出来事～」



中村 靖 会員
(パソコンよろず屋^{プラス})

本日はお時間をいただきまして有難うございます。「IT機器の整備・運用への考え方」というお題でお話させていただきます。

簡単に私の経歴です。社会人1年目からおよそ8年間はプログラマーをしていました。深夜残業、土日無しのいわゆるブラック企業であり、ブラック業界でもありました。

2000年、私が30歳になる歳に一般企業のIT部門に転職をしました。企業名の利用許可を取っていない為、三条市内食品製造のF社とさせていただきます。およそ17年勤務して様々な業務改善を実施しました。

2017年にF社の取引先のIT事業者からお誘いがあり、F社での経験を他の企業様へもご提案したいという思いから転職をしましたがIT事業者のお客様へ対する考え方が私と異なっていた為、2019年秋から独立して現在に至ります。

それではF社でのIT化の内容を簡単にご案内します。私が入社する前にF社ではちょっとITに詳しい方(Aさん)が社内でパソコンをほぼ社員1人1台の100台前後を導入していました。Aさん自身でネットワーク機器を追加し、LANケーブルを自作し拡張していたりもしました。

私が勤務開始した際には、

- ・中古パソコンでトラブル頻発
- ・隣のパソコンにもファイルコピーできないネットワーク問題が沢山ある状態です。

新任の私へのクレームは「パソコンが遅い」「突然パソコンが終了して編集中の文章を失った」「漢字の変換方法がわからない」「印刷できない」「前任IT担当のAさんが散らかした部屋を片付けて」など筋違いの内容のような理不尽なクレームも多い仕事の始まりでした。毎日毎日、データを作成する事を仕事としているデータ作成職人がいました。

受注部門からはCTI導入依頼などもございました。CTI(コンピュータテレフォニーインテグレーション)とは電話システムとパソコン・サーバーを連携させて着信した電話番号から、お客様のご担当者名、住所、受注履歴等をパソコン画面へ表示する仕組みです。

受注部門のCTI導入の理由としては全国のお客様から電話での受注があり、方言で注文がわかりにくい、似た商品名が複数あり受注いただいた商品を特定しづらい等の受注ミスが発生する可能性を減らしたいとの考えからでした。

月末の請求書処理は次のような手間のかかる状態でした。

送付先は約1000件、ドットプリンター10台から印刷される請求書をお客様毎に耳を切って、1枚毎に切って、お客様毎に異なる枚数を重ねて、封筒サイズに折って、封筒へ入れて、テープで止める。

月末は複数の部署から人が集められ20名前後で毎回残業して作業を行っていました。

これらの課題や要望は改善や対応をしました。ここまではIT担当であれば当然実施する内容ですのでご説明は省略します。

とある日に想定していない出来事が発生しました。7.13水害です。この水害は私にとって、物凄い負荷でありましたし、私のITへの考え方、取り組み方を変えた災害でした。

2004年7月13日水害発生



それでは、当時の私の動きをお話させていただきます。

これは(三条市)嵐南地区(氾濫した五十嵐川の南側を指す)の地図です。赤が決壊した堤防、オレンジが自宅、緑が父の工場、青が原信四日町店、紫がF社です。

父は脳梗塞数回患っており、歩行に支障がある状態でした。父から連絡があったのか、ご近所から電話があったのか忘れてしまいましたが、自宅から父を救助に行きたくてとの電話がありました。早速、救助に向かいましたが原信前の嵐南バイパスは流れが急な川のような状態で渡ることができず救助を断念し、勤務先へ戻りました。そんな中、自宅も水没したとの連絡がありましたので、私はF社の2Fに1人泊まる事に決めました。

しかし、夕方にF社も浸水が始まります。

F社の1Fには、基幹システムのサーバー、経理系のサーバー、複数のパソコンがあります。

どこまで浸水するのかわかりませんでしたので、まず重要な基幹システムのサーバーをなんとかしなければと考えましたが、とても大きなサーバーで事務所には帰宅できなかった私1人しかいません。とても1人では運べるようなサイズではありません。そこで隣の同社の工場に応援を依頼しに向かい、2、3人が手伝ってくれました。

私の指示でIT機器の移動をお願いしました。

<指示した内容>

- ・基幹システムサーバーは2Fへ移動(本体が大きく1Fの事務デスクの上に置けなかったから)
 - ・経理系サーバーは1Fの事務デスクの上へ移動
 - ・複数のパソコンは1Fの事務デスクの上へ移動
- 夕方から夜にかけて暗くなってから、結局は事務デスクの上まで浸水してしまいました。

電気はつきませんので1F事務所がどのような状態になっているか確認はできません。

被害状況をまとめると

<個人的被害>

自宅床上50cm

<父の事業被害>

父の工場1F浸水、機械・原材料被害

父は複数回の脳梗塞でまともな対応ができない状況

<F社被害>

- ・3棟浸水
- ・工場機能ほぼ全滅
- ・出荷機能停止
- ・製品在庫、原料資材相当量被害
- ・受注機能停止
- ・経理系サーバー水没
- ・電話システム水没
- ・パソコン30~40台水没

F社は建設中の隣の工場での営業再開を決定します。会社から私へ、新工場での営業再開へ向け作業するように指示があり、水害発生の翌日に水没した事務所へ出社する事になります。では、何故出社できる状況では無い私が出社しなければいけなかったのでしょうか。

出社が必要な理由は、下記の全てを私が管理及び運用していたので誰も手が付けられなかったのです。自宅の復旧作業もありましたので出社し半日で仮稼働させました。

<新工場での対応が必要だった内容>

- ・LAN（ネットワーク）の環境構築
- ・基幹システムを稼働させ受注出荷体制の再開
- ・ファイルサーバー等の運用再開
- ・電話システムの調達、電話開通手続き
- ・フリーダイヤルの着信先変更手続き
- ・プリンタ等の印刷可能環境の準備

このあとパソコンの調達、再セットアップ等もあり1、2か月は土日も出社する事となります。

水害を振り返ると

- ・私が管理・主導しなければいけない場所が3か所もあり、キャパオーバーが発生して私自身が混乱してしまっ
 - ・F社での私の担当部分が広範囲で問題発生した際に代わりができる人がいない状態だった
 - ・基幹システムは偶然にも水没を免れた
- 偶然1：自宅が先に水没し、帰宅が困難だった為、会社にいた
- 偶然2：基幹システムの本体が1Fの事務デスクには上げられない大きな本体だったので2Fへの移動を判断した

水害を経験した事により、私自身も会社も大変な状態になる事がわかりました。私もしくは専任担当に依存する環境下では事業そのものに影響がある事もわかりました。ITに関わらず考え方を変える必要を感じた瞬間です。

そこで災害等を含む何かしらの障害・事象が発生した際には、私（もしくは担当）のキャパオーバーを発生させない事、業務内容・作業手順等を含む情報を複数人で共有する事、結果として私の作業は最小限でF社の業務・事業の継続ができる

このように考えるようになりました。

さらなる改善を実施します。

パソコン、サーバー等のIT機器は壊れる・停止する事を前提に環境を構築する

<パソコン>

標準化を行う

即時利用可能な本体を在庫する

パソコンにデータは置かない（ファイルサーバー）

<サーバー>

異なる本体でも動作可能にする（仮想化）

データは複数拠点でバックアップ

遠隔地でも稼働可能にする（レプリカ）

プログラムの内製化は全て止めました。私が作成済みのプログラムは外部業者へ依頼して全て基幹システム内へ機能の組み込みを行いました。

私が全ての機器の状況を遠隔地から確認できる、さらに遠隔地から対応方法の指示を出せるようにし、私自身の負荷を下げました。F社としては業務稼働率・事業稼働率を上げる事が可能になったと考えています。

このようにIT管理者と企業のWin-Winな環境が構築できたと考えています。

F社での経験を活かし、お客様へサービスとしてご提供させていただいております。

<アドバイザーサービス>

企業様の現在のITの利用方法を拝見し、より良い方法の検討からIT機器、ITソリューションの調達・導入支援を行うアドバイザーサービスをご提供させていただいております。

<サポートサービス（アドバイザーサービスを若干含む）>

F社で構築・運用した遠隔サポートを超える仕組みで「よろず屋サポート」として複数の企業様に運用支援をご利用いただいております。

<物販>

パソコン、サーバー（機器販売・構築）、ネットワーク（機器販売・構築）、ソフトウェア、電話システム構築、IT関連機器等の販売も行っております。

私共は1人で数社のサポートをさせていただいております。緊急時以外はリアルタイムでのサポートはお断りしていますが、何処でサポートの依頼があるとも限りません。そこで遠隔地からサポートできる仕組みは現在も利用しています。私共のお客様で最も遠方は上越市の南雲製作所様です。アドバイザーサービス+サポートサービスをご利用いただきましてIT環境の整備を行いました。現在はサポートサービスのみ継続いただいております。また南雲製作所様のアドバイザーサービスによる改善成功事例を私共のHPに公開させていただいておりますのでお時間がありましたらご覧ください。

もう一つご案内させて下さい。

先ほどのご案内の通り、遠隔地から依頼のあったお客様のパソコン等の状況を確認できる仕組みがあるとお話させていただきましたが、実は本日のプレゼン自体も、その環境を活かした方法で実施しています。私共の事務所に設置されたサーバーの中で動作しているWindowsパソコンをスマホの通信を利用し遠隔操作する事で実施しています。パソコンを落としても、パソコンが壊れても本体にデータはありません。現在も経験を実践しています。

では、本日のまとめです。

IT機器は壊れる、または利用できない事を想定しましょう
結果として

『IT機器の運用管理の簡素化』が実現可能と考えられ、『事業の継続性の向上』が期待されます。